

平成30年第4回嬉野市議会定例会会議録

招 集 年 月 日	平成30年12月6日					
招 集 場 所	嬉野市議会議場					
開 閉 会 日 時 及 び 宣 告	開会	平成30年12月6日 午前10時00分			議 長 田 中 政 司	
	散会	平成30年12月6日 午前10時45分			議 長 田 中 政 司	
応（不応）招 議員及び出席 並びに欠席議員	議席 番号	氏 名	出欠	議席 番号	氏 名	出欠
	1番	山 口 卓 也	出	9番	森 田 明 彦	出
	2番	諸 上 栄 大	出	10番	辻 浩 一	出
	3番	諸 井 義 人	出	11番	山 口 忠 孝	出
	4番	山 口 虎 太 郎	出	12番	山 下 芳 郎	出
	5番	宮 崎 一 徳	出	13番	山 口 政 人	出
	6番	宮 崎 良 平	出	14番	芦 塚 典 子	出
	7番	川 内 聖 二	出	15番	梶 原 睦 也	出
	8番	増 田 朝 子	出	16番	田 中 政 司	出

地方自治法 第121条の規定 により説明の ため議会に出席 した者の職氏名	市長	村上 大 祐	子育て支援課長	大久保 敏 郎
	副市長	池 田 英 信	市民協働推進課長	筒 井 八重美
	教 育 長	杉 崎 士 郎	文化・スポーツ振興課長	
	総務企画部長	辻 明 弘	福 祉 課 長	諸 井 和 広
	市民福祉部長	中 野 哲 也	農 林 課 長	横 田 泰 次
	産業建設部長	早 瀬 宏 範	うれしの温泉観光課長	井 上 元 昭
	教育部長 教育総務課長兼務	大 島 洋二郎	うれしの茶振興課長	
	会計管理者 会計課長兼務	染 川 健 志	建設・新幹線課長	副 島 昌 彦
	総務課長 選挙管理委員会事務局長兼務	永 江 松 吾	環境下水道課長	太 田 長 寿
	財 政 課 長	三 根 竹 久	水 道 課 長	
	企画政策課長	池 田 幸 一	学校教育課長	
	税務収納課長	小 池 和 彦	監査委員事務局長	
	市 民 課 長		農業委員会事務局長	
健康づくり課長	山 口 貴 行	代表監査委員		
本会議に職務 のため出席した 者の職氏名	議会事務局長	田 中 秀 則		

平成30年第4回嬉野市議会定例会議事日程

平成30年12月6日（木）

本会議第1日目

午前10時 開議

- | | |
|-------|---|
| 日程第1 | 会議録署名議員の指名 |
| 日程第2 | 会期の決定 |
| 日程第3 | 諸般の報告 |
| | 報告第14号 議決事件に該当しない契約の報告について |
| 日程第4 | 議案第112号 嬉野市中央体育館駐車場条例について |
| 日程第5 | 議案第113号 嬉野市うれしの市民センター条例について |
| 日程第6 | 議案第114号 嬉野市部設置条例の一部を改正する条例について |
| 日程第7 | 議案第115号 嬉野市議会議員及び嬉野市長の選挙における選挙運動用自動車の使用及び選挙運動用ポスター等の作成の公営に関する条例の一部を改正する条例について |
| 日程第8 | 議案第116号 嬉野市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について |
| 日程第9 | 議案第117号 嬉野市公民館条例の一部を改正する条例について |
| 日程第10 | 議案第118号 嬉野市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について |
| 日程第11 | 議案第119号 嬉野市放課後児童クラブ負担金徴収条例の一部を改正する条例について |
| 日程第12 | 議案第120号 嬉野市公会堂条例を廃止する条例について |
| 日程第13 | 議案第121号 指定管理者の指定について（嬉野総合運動公園、鷹ノ巣公園、轟の滝公園、嬉野市体育館、嬉野市中央体育館） |
| 日程第14 | 議案第122号 平成30年度嬉野市一般会計補正予算（第4号） |
| 日程第15 | 議案第123号 平成30年度嬉野市国民健康保険特別会計補正予算（第1号） |
| 日程第16 | 議案第124号 平成30年度嬉野市後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号） |
| 日程第17 | 議案第125号 平成30年度嬉野市農業集落排水特別会計補正予算（第2号） |
| 日程第18 | 議案第126号 平成30年度嬉野都市計画下水道事業嬉野市公共下水道事業費特別会計補正予算（第1号） |
| 日程第19 | 議案第127号 平成30年度嬉野市浄化槽特別会計補正予算（第1号） |
| 日程第20 | 議案第128号 平成30年度嬉野市嬉野都市計画事業嬉野第七土地区画整理事業費特別会計補正予算（第1号） |
| 日程第21 | 議案第129号 平成30年度嬉野市嬉野都市計画事業嬉野第八土地区画整理事業 |

費特別会計補正予算（第1号）

日程第22 議案第130号 平成30年度嬉野市嬉野都市計画事業嬉野温泉駅周辺土地区画整理事業費特別会計補正予算（第2号）

日程第23 議案第131号 平成30年度嬉野市水道事業会計補正予算（第3号）

日程第24 議案第132号 建設工事請負変更契約の締結について

日程第25 議案第133号 建設工事請負変更契約の締結について

日程第26 議案第134号 建設工事請負変更契約の締結について

日程第27 委員長報告

総務企画常任委員会 人口減少について

文教福祉常任委員会 農福連携について

産業建設常任委員会 水資源の環境保全について

新幹線駅周辺のまちづくりについて

議会ICT化に関する特別委員会 議会ICT化に関する調査研究

午前10時 開会

○議長（田中政司君）

皆さんおはようございます。それでは、いよいよ本日から12月定例会市議会を開会いたしたいと思っておりますけれども、本日は、平成30年12月定例会市議会に御出席をいただきまして御苦勞さまでございます。

本日は全員出席であります。定足数に達しておりますので、ただいまから平成30年第4回嬉野市議会定例会を開会いたします。

今議会の議会運営につきましては、12月4日に議会運営委員会を開催していただきましたので、その結果について報告を求めます。辻浩一議会運営委員長。

○議会運営委員長（辻 浩一君）

皆様、改めましておはようございます。去る12月4日に議会運営委員会を開催いたしました。今定例会の議会運営に関し協議を行いました。

ただいまより会期日程案について御報告申し上げます。

お手元に配付の平成30年第4回嬉野市議会定例会会期日程案をごらんください。

会期は、本日12月6日から12月21日までの16日間であります。

12月6日、本日、開会。会議録署名議員の指名、会期の決定、諸般の報告、議案一括上程、提案理由の説明、委員長報告、本会議終了後、執行部により議案の詳細説明を受ける合同常任委員会となっております。

12月7日、常任委員会。

12月8日、9日、休会となっております。

12月10日、常任委員会。

12月11日、12日、13日が一般質問となっております。いずれも開会時刻は9時30分であり
ます。

なお、一般質問については、今定例会には14名の議員から通告がっておりますので、15
日に5名、12日に5名、13日に4名の配分で行いたいと考えております。

12月14日、15日、16日、17日を休会としております。

12月18日、議案質疑。

同じく12月19日、議案質疑。

議案質疑につきましては、12月18日から12月19日までの2日間を予定しております。

12月20日、休会となっております。

そして、12月21日、討論、採決、閉会としたいと思います。

以上、今定例会の会期日程案について御報告を申し上げます。

○議長（田中政司君）

議会運営につきましては、ただいま委員長から報告のあったとおりであります。質疑はあ
りませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑なしと認めます。これで議会運営についての報告を終わります。

それでは、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程につきましては、お手元に配付のとおりであります。

日程第1．会議録署名議員の指名を行います。

嬉野市議会会議規則第85条の規定により、会議録署名議員に1番山口卓也議員、2番諸上
栄大議員、3番諸井義人議員を今会期中指名いたします。

日程第2．嬉野市議会会議規則第4条の規定により、会期の決定を議題といたします。

お諮りします。本定例会の会期は、本日から12月21日までの16日間にしたいと思います。
御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。会期は本日から12月21日までの16日間に決定いたしました。

なお、会期中の会議予定につきましては、お手元に配付しております会期日程のとおりで
ありますので、御了承をお願いいたします。

日程第3．諸般の報告を行います。

本日までに提出されました平成30年陳情第9号から陳情第11号につきましては、お手元に
配付しております陳情文書表のとおりです。

次に、報告第14号 議決事件に該当しない契約の報告についての報告につきましては、お

手元に配付をしておりますので、それをもって報告といたします。

これで諸般の報告を終わります。

日程第4. 議案第112号 嬉野市中央体育館駐車場条例についてから日程第26. 議案第134号 建設工事請負変更契約の締結についてまでを一括して議題といたします。

朗読を省略いたしまして、提案理由の説明を求めます。市長。

○市長（村上大祐君）

皆さんおはようございます。本日、平成30年第4回嬉野市定例会の開会に当たり、議員皆様の日ごろの御活動、御活躍に敬意を表しますとともに、本市行政に対します御尽力と、御支援、御協力に厚く御礼を申し上げます。

師走に入り、ことしも残すところあとわずかとなりました。この1年を振り返れば、本年6月の大阪北部地震、西日本一帯に甚大な被害をもたらした平成30年7月豪雨、また7月から9月にかけて立て続けに上陸をした台風、また9月6日の北海道胆振東部地震など、全国各地で災害が相次ぎました。改めて、お亡くなりになられた方への心よりの哀悼の意を表すとともに、被災された方々へお見舞いを申し上げます。

災害の教訓を踏まえて今後の安心・安全のまちづくりに全力を挙げるものが生かされている我々の責務と信じ、市民の生命と財産を守るという、行政が果たすべき使命を重く受けとめておるところでございます。

本年2月の市長就任以来、「市民とともに新たな時代を切り開いていく」との考えに立ち、行政と市民、私自身と市民の皆様との連帯感をさらに強くしていくことが何より重要と考えております。今年度実施をしております「市長ふれあいトーク」では、これまで34会場52行政区を対象に開催をさせていただき、たくさんの市民から貴重な御意見や御要望をいただきました。市民の声にしっかりと耳を傾け、地域全体で支え合い、全ての市民の皆様が笑顔で安全・安心の中で充実した生活を送れるような「人にやさしいまちづくり」を推進し、地域全体から『歓声が響き合う嬉野市』を築いてまいる所存でございます。今後とも市民の皆様、議員の皆様のお理解、御支援、御協力をよろしくお願いを申し上げる次第でございます。

この1年、嬉野市においてはスポーツの話題も満載でありました。本年7月には、大手スポーツメーカー「ミズノ」と連携協定を結び、「スポーツを愛するすべての人を応援します」と内外に宣言したところでございます。

また8月には日本サッカー協会と協定を結び、子どもたちがトップアスリートと触れ合う中で将来の夢を真剣に考える「夢先生、ユメセン」事業を市内の小学校全てで実施することにしました。スポーツには、人を感動させる大きな力があり、それをもって、未来ある青少年の心を育むと同時に、幅広い世代の市民の皆様の健康づくり、そして各種大会開催を通じた交流人口の増加、また2020年の東京オリンピック・パラリンピックや2023年に佐賀県で開催をされます国民スポーツ大会・障害者スポーツ大会を見据えた国内外へのシティープロ

モーションなど、スポーツをあらゆる政策の軸に据えていく所存でございます。

次世代を担う子どもたちの活躍も目覚ましいものがあり、先日開催された佐賀県中学校駅伝大会では、塩田中学校が男女ともに優勝をして、今月16日に滋賀県で開催をされます全国大会の切符を手に行っているところでございます。

また、囲碁の世界でも嬉野市の小学生が並み居る大人の強豪に交じって頭角をあらわし、佐賀県最強の座にあと一歩というところまで駒を進めております。今後もスポーツにとどまらず、子育てや教育環境の充実を初め、次世代に向けての人づくりにもこれまで以上に力を入れて取り組んでまいりたいと考えております。

それでは、今定例会に提出をいたしました議案について、その概要を御説明申し上げます。

提出案件は、報告1件、条例の制定2件、条例の一部改正が6件、条例の廃止1件、指定管理者の指定1件、補正予算10件、建設工事請負変更契約の締結3件の全部で24件について、御審議をお願いするものでございます。

まず、条例の制定につきましては、建設中の嬉野市中央体育館駐車場及び嬉野市民センターの管理運営に関するものでございます。条例の一部改正につきましては、市役所の組織機構の変更に伴い改正するもの、公職選挙法の一部改正に伴い改正するもの、農地利用最適化交付金事業実施要綱等の改正に伴い改正するもの、嬉野公民館の廃止に伴い改正するもの、国が省令で定める放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準の一部改正に伴い改正するもの、放課後児童クラブ利用者負担金見直しに伴い改正するものでございます。条例の廃止につきましては、嬉野市公会堂の廃止に伴うものでございます。

指定管理者の指定につきましては、嬉野総合運動公園、鷹ノ巣公園、轟の滝公園及び嬉野市体育館の指定期間が平成31年3月31日で満了となり、また、新たに嬉野市中央体育館を追加し再度指定をお願いしたく、御審議をお願いするものでございます。

次に、補正予算でございますが、一般会計、特別会計及び水道事業会計の10件を提案しております。

まず、議案第122号 平成30年度嬉野市一般会計補正予算（第4号）について御説明を申し上げます。

歳入歳出それぞれ4億8,467万3,000円を追加し、補正後の予算総額を170億7,649万3,000円とするものでございます。

今回の補正は、前年度からの繰越金が確定をいたしましたので、それに関する歳入歳出の予算措置が主なものとなっております。

主な事業といたしましては、老朽化した嬉野消防署の移転予定地の造成に係る測量費として300万円、児童福祉においては、保育所等における幼児の事故防止のための備品購入補助として63万6,000円、農業者支援としては、西日本豪雨により被災した製茶工場の復旧支援に119万8,000円、また、今夏のような災害級の猛暑にも対応できるよう、市内の小・中学校

にエアコンの増設及び更新のための経費として8,994万4,000円を計上しております。

そのほか、各事業の前年度の国県補助事業の精算に係る償還金の計上も行っております。

次に、議案第123号 平成30年度嬉野市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）について御説明申し上げます。

歳入予算に県補助金及び繰越金等を計上し、県補助金については主に療養費への充当、繰越金については全額を国民健康保険給付費基金に積み立てております。

次に、議案第124号 平成30年度嬉野市後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）について御説明を申し上げます。

歳入予算に繰越金を計上し、その繰越金について、広域連合に納付すべき額と一般会計へ繰り戻す額に分けて歳出予算を計上しております。

次に、議案第125号 平成30年度嬉野市農業集落排水特別会計補正予算（第2号）について御説明を申し上げます。

歳入予算に前年度繰越金を計上し、同額を一般会計繰入金から減じております。

次に、議案第126号 平成30年度嬉野都市計画下水道事業嬉野市公共下水道事業費特別会計補正予算（第1号）及び議案第127号 平成30年度嬉野市浄化槽特別会計補正予算（第1号）について御説明を申し上げます。

どちらも歳入予算に前年度繰越金及び消費税還付金を計上し、一般会計繰入金で調整を行うものでございます。

次に、議案第128号 平成30年度嬉野市嬉野都市計画事業嬉野第七土地区画整理事業費特別会計補正予算（第1号）及び議案第129号 平成30年度嬉野市嬉野都市計画事業嬉野第八土地区画整理事業費特別会計補正予算（第1号）及び議案第130号 平成30年度嬉野市嬉野都市計画事業嬉野温泉駅周辺土地区画整理事業費特別会計補正予算（第2号）について御説明を申し上げます。

歳入予算に前年度繰越金を計上し、歳出予算は第七区画整理事業費で一般会計繰出金への計上を行っております。

最後に、議案第131号 平成30年度嬉野市水道事業会計補正予算（第3号）について御説明を申し上げます。

簡易水道統合事業完了に伴う管路網システム更新などについて所要の補正を行っております。

以上、議案第122号から第131号までの補正予算について、簡単ではございますけれども、提案理由の説明とさせていただきます。

そのほか、嬉野市中央体育館・うれしの市民センター建設に係る建設工事請負変更契約の締結について、地方自治法等の規定に基づき、議会の議決を求めるものでございます。

以上で、本議会に提案をいたしました議案についての概要説明を終わりますが、各議案の

詳細な内容については、担当部課長から説明をいたしますので、何とぞ慎重な御審議をお願い申し上げます。

なお、会期中に人事案件の追加提案を予定しておりますので、あらかじめ了承いただくようお願いをしたいと思います。

最後になりますが、今議会では14名の議員の皆様より一般質問をお受けしております。一つ一つ真摯にお答え申し上げたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

○議長（田中政司君）

これで提案理由の説明を終わります。

お諮りします。議案第112号から議案第134号までの23件につきましては、委員会付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、議案第112号から議案第134号までの23件につきましては、委員会付託を省略することに決定いたしました。

日程第27. 委員長報告を議題といたします。

閉会中、各常任委員会に付託しておりました調査事件について、各委員長に報告を求めます。

まず、総務企画常任委員会の付託事件、人口減少について報告を求めます。山口忠孝総務企画常任委員長。

○総務企画常任委員長（山口忠孝君）

皆さんおはようございます。それでは、総務企画常任委員会の報告を読ませていただきます。

平成30年9月議会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則第107条の規定により報告をいたします。

付託事件名、人口減少について。

調査の理由。

少子・高齢化に伴う人口減少問題は避けて通れない課題であり、これからの社会やまちづくりに大きな影響を及ぼすと考えております。就職や進学で地元を離れていく高校生に地元への回帰を促す施策に取り組み、さらにまちおこしや地域づくりに結びつけている福井県大野市へ視察研修に行きました。

調査の概要といたしまして、平成30年11月7日、福井県大野市の薪ストーブが燃える暖かい真新しい庁舎で議会事務局長の歓待を受け、その後、担当課職員から詳細説明と質疑応答の研修を行いました。

「大野へかえろう」事業について。

応対者といたしまして、大野市議会事務局局長、岸田尚吾氏、大野市教育委員会生涯学習

課課長、中村吉孝氏、主事、城地勇樹氏の3名でございます。

内容に関しましては、以下のとおり列記しておりますので、目を通していただきたいと思います。

委員会の意見のほうを読ませていただきます。

委員会の意見。

大野市の人口減少は、2010年3万5,291人から2018年3万3,606人へと10年足らずで1,685人も減り、2030年には2万5,928人に減少すると予想されております。

大野市では、平成25年に第5次総合計画の中で「越前おおのブランド戦略」を策定し、その取り組みの一つとして「大野へかえろう」事業が実施されてきました。広告代理店大手の電通と提携しながらこの企画を進められているが、予算規模も大きな額になっております。

高校生という若者に焦点を当て、将来地元に戻ってきてこのまちを支え人口減少に歯どめをかけたいという視点からこの施策を展開されているが、その効果は即効性がなく目に見えにくいものであり、担当者の言葉にも「将来効果を期待している」と、やや弱いものであります。しかし、自分が育ったまちの歴史（過去・現在・未来）を人格形成期の高校生に植えつけることは、長期的な視点に立てばとても重要なことであり、私たちが忘れかけていたふるさとのよさを再認識するきっかけになるだろうと思います。そのことが、地域の活性化や人口減少の歯どめにつながっていくのではないだろうかと感じたところでございます。

人口減少対策として、本市では企業誘致や雇用の場の確保等の施策に取り組んでおられるが、大野市のような長期的な視点に立った施策も必要ではないかと感じたところでございます。

なお、今回の視察研修では、大野市の市史編さんに携わられた福井県立大学経済学部教授の原田政美先生との懇談の機会があり、人口減少問題にとどまらず私たちを取り巻くさまざまな課題や問題について講義を受けてきました。

以上です。

○議長（田中政司君）

ただいまの報告に対して、質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

お諮りいたします。本件については、ただいまの報告のとおり了承したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。人口減少については、報告のとおり了承することに決定をいたしました。

次に、文教福祉常任委員会の付託事件、農福連携についての報告を求めます。増田朝子文

教福祉常任委員長。

○文教福祉常任委員長（増田朝子君）

おはようございます。では、文教福祉常任委員会の報告をさせていただきます。

平成30年9月議会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則107条の規定により報告いたします。

付託事件名、農福連携について。

調査理由。

本市において、少子・高齢化の影響で農業の後継者不足、農業就業者の減少による耕作放棄地の問題も大きな課題となっている中で、この6月には第2次嬉野市総合計画が策定され、その中にも「農福連携の推進」が掲げられております。そこで今回、農福連携の先進地である名張市と京田辺市のさんさん山城の取り組みについて調査を行いました。

調査の概要。

農福連携の取り組みについて、名張市障害者アグリ雇用推進協議会。

調査日、平成30年10月31日水曜日。

視察地、三重県名張市。

対応者、産業部農林資源室、岩本氏、福祉子ども部障害福祉室長、田中氏、名張市地域包括支援センター、池上氏、障害者人材センター障害者就労支援員、水本氏でした。

名張市の概況と調査内容については、後だって御一読ください。

続きまして、形態が違いますけれども、農福連携の取り組みについて、山城就労支援事業所さんさん山城の視察をさせていただきました。

調査日、平成30年11月1日木曜日。

視察地、京都府京田辺市さんさん山城。

対応者、施設長、新免氏、管理者、藤永氏。

山城就労支援事業所さんさん山城の概要及び取り組みの内容については、後だって御一読ください。

委員会の意見といたしまして、名張市の名張市障害者アグリ雇用推進協議会と山城就労支援事業所さんさん山城の取り組みは、地元障がい者において農業を核とした労働機会の拡大、社会参加につながっております。

高齢化などで担い手が不足する農業と収入を得るための就労先の確保が困難な障がい者とをマッチングし両者の課題を解決しようとする農福連携は、障がい者だけでなく、高齢者、引きこもりや社会参加ができない人の誰もが自然に触れ、農作業に従事することで自分の居場所を見つけ、心身の成長に好影響を及ぼしております。また、地域の人との交流が生まれることで、ともに生き生きと暮らせることのできる地域づくり、共生社会へつながると考えております。

本市において、農福連携を推進するに当たっては、まずは、農業と福祉双方のニーズを把握、整理し、さらに双方をマッチングするコーディネーターが必要であると考えます。そのためにも、幅広い意見を取り込めるように各種団体を含む協議会等の設置など、早急な環境整備が必要と考えます。

以上です。

○議長（田中政司君）

ただいまの報告に対して、質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

お諮りいたします。本件については、ただいまの報告のとおり了承したいと思えます。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。農福連携については、報告のとおり了承することに決定をいたしました。

次に、産業建設常任委員会の付託事件、水資源の環境保全について及び新幹線駅周辺のまちづくりについて報告を求めます。川内聖二産業建設常任委員長。

○産業建設常任委員長（川内聖二君）

皆さんおはようございます。それでは、産業建設常任委員会の報告を行いたいと思えます。

平成30年9月議会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則107条の規定により報告いたします。

付託事件名、新幹線駅周辺のまちづくりについて。

調査理由、2022年度に暫定開業する九州新幹線西九州ルート嬉野温泉駅（仮称）の周辺のまちづくりについて、自然のエリアに地場産品と風土を生かしながらまちづくりを行われているハルニレテラス（商業施設）と開業後年数が経過した佐久平駅周辺のまちづくりについて調査を行いました。

調査の概要、軽井沢星野リゾートハルニレテラス。

調査日、平成30年10月15日。

調査場所、長野県軽井沢町星野、星野リゾート「ハルニレテラス」。

対応者、株式会社星野リゾート、藤原氏。

調査内容につきましては、御一読よろしくお願いをいたします。

次に、佐久平駅のほうへ視察を行いました。

調査の概要、佐久市佐久平駅周辺のまちづくりについて。

調査日、平成30年10月15日。

調査場所は長野県佐久市役所議会棟2階。

対応者、建設部次長兼都市開発室長、畠山氏、建設部都市開発室区画整理係、齋藤氏。

佐久市は、長野県の東に位置する高原都市で四方を浅間山、八ヶ岳、荒船山の名峰に囲まれ、市内中央に清流千曲川が流れるほか、日本で一番海から遠い位置にあるまちで、平成の大合併により1市2町1村が合併し、面積423.51平方キロメートル、人口約9万9,000人の都市でございます。

また、視察内容に関しましても、これは皆様方の御一読のほう、よろしく願いをいたします。

続きまして、水資源について視察を行ってまいりました。

付託事件名、水資源の環境保全について。

調査理由といたしまして、地域の水資源は、地域の貴重な財産であるという認識のもと、水資源の保全を図り将来にわたり有効活用するために、森林を外国法人等から守る取り組みを行われている自治体の調査を行ってまいりました。

調査の概要。

調査日、平成30年10月15日。

調査場所、長野県佐久市役所議会棟2階。

対応者は環境部環境対策課課長、大塚氏、環境対策課環境保全係係長、中澤氏、環境保全係専門職、金澤氏、以下、佐藤氏と武井氏に説明を受けてまいりました。

視察内容といたしましても、御一読のほうよろしく願いをいたします。

それでは、委員会の報告をいたします。

まずは、軽井沢星野リゾートハルニレテラス。

嬉野温泉駅周辺の取り組みとして今後、商業・業務地の計画がありますが、当市は、自然豊かな山間地の小さなまちですが、ここだけの風土や特産品は数多くあります。ハルニレテラスの商業施設のように、ここに来ないと手に入らない物や地元の特産品を生かしたものを提供して、風土に似合うぬくもりのある地産材を活用した建屋で人を癒し、誰もが訪れたい空間を目指し取り組むべきと考えます。

また、当市の駅前の商業・業務地においても行政が運営管理をする負担を鑑みますと、このように民間による施設を構築し運営をする形がベストではないかと考えました。

次に、佐久市佐久平駅周辺のまちづくりについて。

佐久市は、当市のように街道の宿場町として栄えてきましたが、明治の近代化の鉄道が外れることで、陸の孤島と呼ばれるほど交通の便が悪くなり、新幹線の開通は百年の計ということで、まちづくりに関しましては行政としても多少無理をしてでも効果があるものをつくらうという思いだったそうです。当市は現在、駅舎デザインに関しましては鉄道機構側と協議をし決定をしていますが、今後の取り組みとして橋上駅ということで昇降機は必要不可欠な設備なので後づけは当初の負担額以上の工事費が必要となるため十分な設置数を設ける必

要があると考えます。

また、佐久平駅だけではなく、ほかの駅も重要視する駅を中心として広域的な観光や通勤通学ができるように、公共交通の交通計画や駐車場やレンタカー施設の配備計画等を官民一体となり十分に協議検討をすべきと考えます。

今後、多くの方に利用していただくため、嬉野市の魅力発信や隣接する自治体と広域での観光等の連携を図り、最寄りの新幹線駅として利活用されるよう働きかけをしなければならぬと思いました。

次に、水資源の環境保全について。

水資源の環境保全について、佐久市としては水道水源のほぼ100%が地下水や湧水ということから佐久市地下水保全条例を制定し、供給源の地下水の保全にこれまで力を入れてきました。当市の水の供給としては今後、2020年4月から広域企業団での統合を目指し協議を進められていますが、統合後、大規模の災害による断水時に対しては、残される浄水場から生活水の確保ができるように整備を行われることを望みます。

また、土地の所有権での中国の日本買いというように、地下資源は水だけではなく、温泉も同等と考えます。当市としても森林等の土地の外国法人からの買収に関しては、個人所有が多いため県と連携を図りながら条例等の新しいルールづくりに向けて取り組むべきと考えます。

地下水が佐久市広域での市民の財産というように、当市においても水や温泉は、まち全体の財産と考えますので、現在の源泉については個人所有が多く個人資産でもあるので譲渡に対する規制を定めるのは現段階では非常に厳しいと思います。

現在、当市は将来にわたり温泉資源を有効活用するために資源保全の第一歩としてモニタリング構築事業を行っていますが、最終目標としては源泉の集中管理ができるように目指さなければならないと考えました。

以上です。

○議長（田中政司君）

ただいまの報告に対して、質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

お諮りいたします。本件については、ただいまの報告のとおり了承したいと思えます。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、水資源の環境保全について及び新幹線駅周辺のまちづくりについては、報告のとおり了承することに決定をいたしました。

次に、議会ICT化に関する特別委員会に付託中の議会ICT化に関する調査研究につい

ては、会議規則第45条第2項の規定により、同委員会より中間報告を行いたいとの申し出がありますので、この際、これを許します。芦塚典子議会ICT化に関する特別委員会委員長。

○議会ICT化に関する特別委員会委員長（芦塚典子君）

皆さんおはようございます。議会ICT化に関する特別委員会の中間報告をいたします。

本委員会に付託されました下記事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則第45条第2項の規定により報告をさせていただきます。

付託事件名は議会ICT化に関する調査研究。

嬉野市議会は、3月議会において議会ICT化に関する特別委員会を設置し、ICTを活用し効果も含め多様な住民の意見の把握、住民への情報提供、議会の効率化等、幅広い分野でどのような取り組みができるか、市議会としての方向性を具体的に調査研究するため、特別委員会を設置しております。

経過として、平成30年3月に特別委員会の進め方及び議会ICT化推進基本計画策定について、協議いたしました。

平成30年5月には、議会ICT化推進基本計画作成案に係る現状、課題について、先進地事例紹介と当議会の現状と課題について、協議いたしました。

6月は、議会ICT化において、先進地事例事前調査をいたしました。

7月、議会ICT化先進地として武雄市議会と大村市議会を視察研修いたしました。

9月には、前回意見等の確認と他市議会視察研修結果等についての整備の方向と取り組み方針について協議をいたしております。

10月には、議会ICT化に伴うタブレット等体験会を開催し、タブレット端末機や文書共有システムの使用方法などについて研修会を開催いたしました。

11月、議会ICT化に関する特別委員会としての中間報告策定等について協議をいたしました。

議会ICT化に関する特別委員会視察研修結果については、平成30年7月18日に武雄市議会ICT化推進について、また大村市議会のICT化の活用について視察研修を行っております。

これは、ここに列記をしておりますので、お目を通していただければと思います。

委員会報告のまとめといたしましては、現在、議会においてICTを定例会の採決及びモニターTV等で活用しておりますが、個別・断片的な活用であり、議会としてICT化について体系的・計画的に活用推進していく必要があると思います。

ただいまの厳しい財政状況の中、議会としてICT化を推進していくためには、議会としてのICT活用の方向性を明らかにするとともに、その推進策を項目別に検討、評価し、体系的にまとめた計画を策定すべきであります。確定した方向を見出すには、さらに研さんが必要と思われます。ICT化推進計画は、全てを実施するのではなく、計画の中で優先的

なものを実施していくという視点でICT化を進める方針です。また、議会においてICT化を進めていく上で最も重要なことは、議会として項目ごとに実施時期を定め、全ての議員が自己研さん、または研修等を通じて取り組むことが必要であると考えております。議会改革推進の効率化のためのICT化には、議会の見える化及び業務の効率化、さらにICT機器について研究並びに研修がさらに必要と考えております。

以上が、本委員会の4月からの調査報告といたします。

○議長（田中政司君）

ただいまの報告に対して、質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

お諮りいたします。本件については、ただいまの報告のとおり了承したいと思っております。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、議会ICT化に関する調査研究については、報告のとおり了承することに決定をいたしました。

以上で本日の日程は全部終了をいたしました。

本日はこれで散会いたします。

午前10時45分 散会